



各報道機関 様

KJ00503150

2025年8月1日

発信課	福祉保険部長寿社会課
担当者	笠松 修英
連絡先	電話 直通25-6457 / 内線5318
	FAX 29-6404
	E-mail n_kasamatsu@city.asahikawa.lg.jp

分類	イベント・行事 <input type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日程	令和7年8月5日 13時30分 ~ 令和7年8月5日 16時30分
発表項目 (行事名)	戦争体験を語る会
概要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p><趣旨> 高齢者の戦争体験を未来を担う子供たちに伝えることで、憲法の平和主義や教育基本法前文の理念を再確認することなどを目的とする。</p> <p><日時> 令和7年8月5日(火) 午後1時30分~4時30分</p> <p><場所> 旭川市障害者福祉センター おびった 2階 会議室1</p> <p><内容> ・教育大学旭川校 白岩 伸也准教授の講義 ・老人クラブの高齢者(語り部 91歳) ・グループワークなど</p> <p><参加者> 15名程度</p> <p>主催 旭川市老人クラブ連合会(旭川市福祉保険部長寿社会課内) 後援 旭川市 旭川市教育委員会</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道(取材)に当たってのお願い	
備考	

戦後80年 世代間交流イベント「戦争体験を語る会」

1 目的

令和7年は、太平洋戦争が終結して80周年の節目の年で、戦争体験を「生で語る」ことができる高齢者がいる「最後のチャンス」と言っても過言ではない。戦後80年間、日本では戦争はなく平和が保たれてきたが、ウクライナや中東での今の戦争を考慮すると、戦争が起きると、多くの人間が死亡し、生存が脅かされることは明らかである。

太平洋戦争等においても、多くの人命が失われた歴史的事実を踏まえ、平和教育として、今を理解し未来へ進むために、歴史を学ぶ意義を確認し、世代間交流として、老人クラブ高齢者の戦争体験を、未来を担う中高生に伝えることで、憲法前文の平和主義や教育基本法の理念の再確認や「不戦の誓い」を新たにすることを目的とする。

2 日時等

- (1) 日時 令和7年8月5日(火)
時間 午後1時30分～午後4時30分(予定)
- (2) 場所 旭川市障害者福祉センターおびった 2階 会議室1

3 内容案

- (1) 歴史を学ぶ意義と太平洋戦争等の概略(コーディネーター)
- (2) 戦争体験を語る(語り部1名)
- (3) グループワーク(戦時下の食卓の絵を描く)
- (4) 発表・質疑
- (5) まとめ(コーディネーター)

4 募集人数

小学生、中学生、高校生15名程度

5 コーディネーター 北海道教育大学旭川校 白岩 伸也准教授

6 主催 旭川市老人クラブ連合会(旭川市福祉保険部長寿社会課内)

7 後援 旭川市 旭川市教育委員会

8 担当 旭川市福祉保険部長寿社会課高齢者支援係 笠松 内線5318

憲法前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基づくものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

教育基本法

前文

我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。

ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓ひらく教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。

第一条（教育の目的）

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

戦争体験要旨

1 概要

- ・昭和8年生まれ。父親は警察官
- ・父親が、日中戦争に招集（昭和12年～14年）され、戦闘で負傷及びマラリア感染し、帰国。昭和16年4月に再び招集され、第七師団（旭川市）に配属となるが、花咲町にあった陸軍病院で昭和16年9月に死去（戦病死の認定を受ける）する。小学2年生の下山さんは、陸軍病院の病室にあった枯れかかった「コスモス」の花を今でも印象深く覚えている。
- ・室蘭市から母親の実家の中頓別町（宗谷管内）に移住し、太平洋戦争期間中を過ごす。食べたくても食べるものがない「本当にひもじい」生活をする。

2 戦争体験要旨

(1)今、思い出しても涙が出る

- ・父親が、死亡した後、本州にいた叔父が、室蘭市に来て、下山さんを引き取る申出を母親が、拒否したやり取りを隣の部屋で聞いたこと。
- ・大人になってから、母親から、戦時中に一家心中（子供を楽に殺して、自分も死のう）と考えたことが何度もあったと聞かされたこと。

以上のことを今、思い出しても涙が出る。

(2)母親は戦争を憎んでいた

母親は「戦争は嫌だ」としみじみ語っていて、戦争を憎んでいた。父親が死亡した後に、中国人に銃剣を突きつけた日本兵の写真が家で見つかった時は、破り捨てた。

母親が死ぬ間際に、下山さんに「遺族会の活動（戦争体験を語り継ぐ）をしっかりやれ。そうしないとお前の子供が悲しみにあう」と言われ、その後遺族会の活動をするようになった。

(3)今も危ない

アメリカのトランプ大統領をみていると「危ない」と感じる。例えば、今、日本はエネルギー（石油）の9割を海外から輸入しているが、それを止められたら、外国に石油を求めよう、戦争してでも石油を確保しようという声だ、だんだん大きくなって行って、いつの間にか、戦争に巻き込まれてしまう。「声の大きい人に支配されてしまう。」

そうならないように、日本も「きちっと過去を反省する必要がある。」

(4)腹が空いても食べ物がない

配給、「米穀通帳」はあったが、配給される物は少なく、米は、年3回（正月、お祭り、お盆）しか食べられなかった。自給自足で、芋（馬鈴薯）が主食。麦のご飯は良いご飯で、食料が不足していた。弁当を学校に持っていけない。昼ご飯なし。腹が空いても食べるものがない。

食べるものがないので、うど、ふき、わらびなどの山菜が貴重な食べのものであった。ヤマメやウグイを釣って食べていた。砂糖はない。塩は配給されたが、少なかった。

母親が羊を飼い、羊の毛を刈って、糸を紡いで毛糸を作り、風連町などで米と物々交換して帰ってきて、駅で警察に米を没収された。闇米

(5)恐ろしい思想教育

学校では、「英米に勝つ。今、がまんしていれば、未来は良くなる」と教えていた。恐ろしいのは「鬼畜米英、このままだと日本がもたない」と追い込んでいく思想教育を学校、社会全体で行っていたこと。戦争反対を表現できない状況であった。中頓別町の自分の周り人たちは、戦争に負けると考えていた人はいなかった。

(6)新聞・ラジオ

下山さんは、新聞配達をしていたので、戦時中の新聞を読んでいた。新聞には、日本が勝つと良いことしか書いていなかった。

ラジオから聞こえてくるのは、軍歌、勇ましい音楽。ラジオドラマも鬼畜米英に勝つ内容であった。

(7)着る物がない

寒くても着る物がない。靴がない。宗谷地方の寒い冬でもわら靴を履いていた人がたくさんいた。

(8)燃料がない

燃料の薪が不足し、丸太の皮を焚き物（燃料）にしていた。営林署から払い下げとなった森に小学生も入り、木の枝などを拾ってきて、焚き物（燃料）としていた。

(9)金属回収

金属回収で、中頓別町でも鍋など家にある金属が取られた。

(10)あんぱん

NHKの朝の連続テレビ小説「あんぱん」で描かれている戦時中の内容は、本当のことだ。愛国心教育を熱心に行い「愛国の鑑」と言われた先生（主人公・女優 今田 美桜）が、戦争が終わった時に、教師を辞めることが描かれていたが、「良識があれば、教師を辞めるのが、本当だ」と思う。

参加者の皆さんへ

「戦争体験を語る会」のグループワーク「中頓別国民学校時の下山さんの食卓の絵を創ろう！」では、みんなでパズルのように「絵」を描くことをします。

以下の要領で、パズルの1ピースとして、次の一つの「絵」を事前に自分で描いてきてください。

1 描いてくる絵

下記の写真や資料を見て、中頓別国民学校期の下山さんの主食、おかずなどを、自分で考えて1つ描く。描ける人は2つ以上描いてもよい。いずれにせよ、絵の上手い下手、正しいかどうかを気にする必要はなく、資料を読みながら想像力を働かせ、思い切って自由に描くこと。

2 用紙 別紙 お茶碗(主食)、皿(おかず)、汁椀

3 色など 色も道具(例えば色鉛筆)も自由

4 グループ目標 「中頓別国民学校時の下山さんの食卓の絵を創ろう！」



主催 旭川市老人クラブ連合会(旭川市福祉保険部長寿社会課内)

後援 旭川市 旭川市教育委員会

講師・コーディネーター 北海道教育大学旭川校 白岩 伸也 准教授(教育史)

語り部 下山 敏さん(91歳)

グループワーク「中頓別国民学校時の下山さんの食卓の絵を創ろう！」

1 目標

グループで中頓別国民学校時の下山さんの食卓の絵(1枚)を創ることが目標

2 ピースとパズル

みんなの絵(ピース)を組み合わせて、中頓別国民学校時の下山さんの食卓の絵(パズル)を創る。

3 グループワークの流れ

(1)食卓の絵を創るためにイメージなどを話し合う

講義や戦争体験で聞いたことをもとに、グループとして、食卓全体のイメージや、主食(お茶碗)、おかず(皿)として何を描いたら良いか話し合おう。

(2)パズルを創ろう

みんなが描いてきた絵(ピース)を組み合わせて、中頓別国民学校の下山さんの食卓の絵(パズル)を創ってみよう。

(3)フィットしたかな？

(1)で話し合ったイメージや主食(お茶碗)、おかず(皿)の内容とフィットしたか、みんなで話し合おう。

(4)フィットしてない！

フィットするような主食(お茶碗)、おかず(皿)を描いてみよう！
フィットするよう、色を修正しよう！

(5)下山さんに質問できるよ！

(6)食卓の絵が完成したら、みんなで話し合おう！

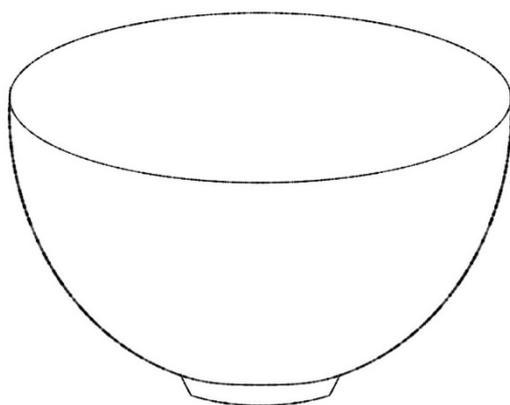
食卓の絵が完成したら、事前に描いてきた絵と完成した食卓の絵をみて、違いやイメージ、絵に込めた思いについて話し合う。

(7)発表

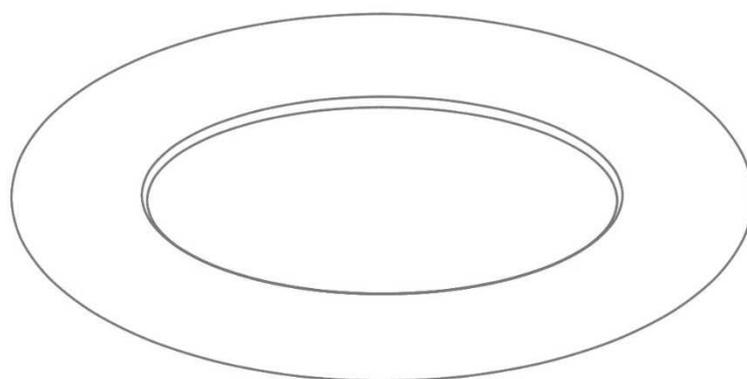
グループリーダー(高校生)が、事前の絵と完成した食卓の絵の違い、絵のイメージ、絵に込めた思いを3分以内で発表しよう。

※ 描いた時に使った道具(色鉛筆など)を当日もってくること！

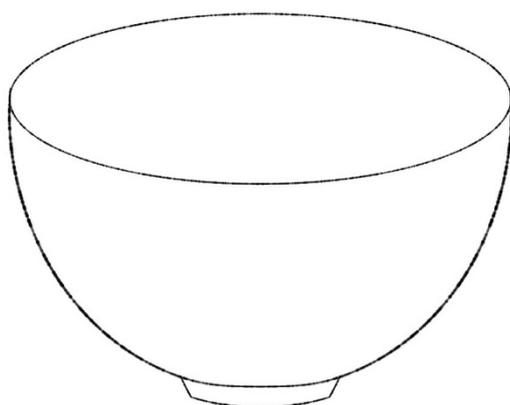
主食(お茶碗)



おかず(皿)



汁椀



※これとは別に食器を自分で一から描いてもよい